

作成日：西暦 2025 年 12 月 2 日

耳鼻咽喉科・頭頸部外科における実践的な手術手技向上研修におけるアンケート調査 に参加された方へ

産業医科大学では、以下の研究を実施しております。この研究は、これから実施する調査で得られる情報に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる皆様のお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。本研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

耳鼻咽喉科・頭頸部外科における実践的な手術手技向上研修におけるアンケート調査

2. 研究期間

研究機関の長の許可日～2028 年月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学 耳鼻咽喉科頭頸部外科学

4. 研究責任者

産業医科大学 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授 堀 龍介

5. 研究の目的と意義

近年、医療安全への社会的な関心が高まり、手術手技の修練も臨床経験を積んだ上で、さらに模型や動物等を使用して十分な練習を行うことが求められている。しかし、より先進的で高度な手術手技は臨床で経験する機会が少なく、複雑な解剖学的構造を有する部位のトレーニングが難しい場合もある。

海外では幅広く行われているご遺体を使用した手術手技向上のための研修（サージカルトレーニング）は、我が国においても 2012 年に「臨床医学の教育研究における死体解剖のガイドライン」により実施できるようになり、医療技術や医療安全の向上を図ることを目的とし徐々に普及してきているが、いまだに模型を用いた手術解剖実習も重要なトレーニング手段である。

本学においては、平成 26 年に手術手技研修専門委員会が設置し、献体遺体を用いた臨床手術・手術手技等の教育研究を目的とした研修を継続的に行っている。しかし、模型やご遺体を使用したサージカルトレーニングの研修効果を評価することは重要であるが、これまで適切に評価されてなかった。

本研究では、模型及びご遺体を使用したサージカルトレーニング実習の研修直前、

直後、及び研修実習後6か月の時点での解剖的理解度と手術手技習得度をアンケートにて評価することを目的とする。実習研修を最大限に活用できる意義がある。

6. 研究の方法

模型もしくは献体遺体を用いた内視鏡下耳科手術、内視鏡下鼻副鼻腔実習、及び喉頭解剖実習において、実習直前、実習直後（実習から2日以内）、実習から6か月時点において、解剖的理解度と手術手技習得度のアンケート調査を行う。アンケートはフォームを使用する。

7. 個人情報の取り扱い

氏名・所属などの個人情報は、分析する前に代わりに新しく符号をつけ、あなたとこの符号を結びつける対応表は研究責任者が厳重に管理し、あなたの個人情報の漏洩を防止します。このように、安全管理措置を施し匿名化することで、研究者が個々の解析結果を特定の個人に結びつけることができなくなります。ただし、解析結果についてあなたに説明する場合等、個々の情報を特定の個人に結びつけなければならない場合には、研究責任者の管理の下でこの符号を元の氏名に戻す作業を行い、結果をあなたにお知らせすることが可能になります。

8. 得られた情報の利用目的の範囲

- ・学術発表など研究目的：あり
- ・第三者提供：あり（論文投稿雑誌の要求がある際に限る）
- ・海外への提供：あり（論文投稿雑誌の要求がある際に限る）
- ・公的データベース等への登録：なし

9. 問い合わせ先

産業医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 堀 龍介（093-691-7448）

10. その他

本研究に参加することによる直接的な利益はありません。また経済的負担や謝礼也没有ありません。本研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。